

岩手県職労

月2回刊=1620号
2023年3月15日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合
印刷所 盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジョー印刷企画 一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

2023 春闘勝利!

全職員の組合加入で職場要求を

人員確保・労働条件を重点に方針確立

特別闘争資金徴収で更なる運動強化

3月4日、県職連合第33回・県職労第129回臨時大会を開催し、全組合員が実感できる賃金・諸手当改善、人員確保・長時間労働の解消をはじめ、新採加入の取り組み、8月の盛岡市議会議員選挙では組織内「野中靖志」勝利に向け、春闘方針を確立し意思統一をはかった。また、組合員の賃金・労働条件の改善に向け重点的に取り組む活動として提案した特別闘争資金の徴収(案)は、大会代議員の賛成多数で可決された。



▲県職連合第33回・県職労第129回臨時大会

開会に当たり、小田嶋中 央執行委員長は「23春闘をはじめ4月の加入促進の取り組みなど、当面する県職労の闘争方針を確認する重要な場。昨年はベア・一時金共にプラスを勝ち取るこ とが出来たが、物価高騰が

続く中で、実質賃金はマイナスといえる。民間春闘は、比較的高い率で賃金改定が出されるとの報道もされているが、一方で、原油高で会社は運営経費の確保のため、賃金に回せるか不安も抱えている。働くものが主

人公となれない社会の中で、会社の運営コストの一部でしか賃金を捉えていない状況で、民間の仲間は頑張って闘争を続けている。私たちが公務職場は、3月の民間賃金の妥結結果を、秋の確定闘争で4月での週及措置を含め確定していく。秋の要求に向け、春闘期からスタートさせる重要な取

り組みといえる。活発な意見交換、積極的な討論をいたす中で、運動方針の補強をお願いしたい」とあいさつ。その後、伊藤裕一自治労岩手県本部執行委員長の来賓あいさつ、野中靖志盛岡市議会議員(県職労組織内)の政治活動報告もされ、夏の統一自治体選挙に向けてもにたかう決意も述べられた。

議事では、春闘方針の他、段階的定年引上げに伴う県職労総合共済規程の改正(新設される暫定再任用職員及び定年前再任用短時間



▲賛成多数で全ての議案を決定した

勤務職員を現行の再任用職員と同様に準組合員乙(再任用等)に定義し、組合員の総合共済における権利を維持しようとするもの)、特別闘争資金の徴収等を提起。9人の代議員から職場実態を踏まえた補強発言で春闘方針は採択された。

特別闘争資金の徴収に係る提案では、支部内での議論を経て、代議員から多数

発言が出された。意見では、組合脱退につながりかねないこと、提案時期の遅れや拙速すぎるなどの反対意見が出された一方、やむを得ない、より一層の運動強化に活用すること、特別闘争資金凍結後に加入した組合員からすれば、組合費の値上げと捉えられることから、可決された後も丁寧な説明が必要であるなどの発言も出された。様々な発言の後、採決に入り、賛成多数で可決された。

最後に小田嶋委員長の団結ガンバローで春闘勝利に向け意思統一した。県職労は、3月8日、当局へ「春闘要求書」を提出し、職員が実感できる改善策を求め全力で取り組む。(代議員発言は裏面)

第26回東北地連 青年女性夏期交流集会

◆日時 2023年7月7日(金)午後～7月9日(日)正午
◆場所 「天童グランドホテル舞鶴荘」山形県天童市鎌田本町2-4-51
◆集約 一次集約 4月12日(水) 最終集約 4月26日(水)
東北地連青年女性夏期交流集会とは? 東北各県の仲間と労働組合を通じた交流と職種ごとの職場実態討論をし、学び合う集会であり、全国の仲間が集う中央大交流集会と1年ごとに交代で開催されているもの。



▲春闘人事課総括課長交渉に臨む県職労交渉団

3・8春闘人事課総括課長交渉 職場実態踏まえた 増員求める

3月8日、県職労は23春闘要求書を加藤人事課長に提出し、次年度の人員配置、人事異動課題をはじめ、秋の確定闘争からの継続課題など当局の姿勢を質し、23年度闘争の要求・交渉をスタートさせた。主な回答は次のとおり。

【諸手当改善】住居手当など人事委員会勧告で公民比較の対象の諸

4月18日告示・23日開票予定 矢中町議会議員選挙 山本好章さんを推薦



山本好章 (62歳) 無所属・新人

県職労は、4月18日告示、対策と若者の定住化」「医療・福祉・介護の充実」「スポーツ施設の充実」「持続可能な農業政策の推進」を町政に反映し、子育て支援に向け組合員・家族への支援「教育環境整備」「雇用持浸透をお願いする。

手当は、県民への説明責任を果たしつつ、人事委員会と意見交換していく。オンコール手当の創設については、待機時間の取り扱ひも含め他県の状況等を踏まえ適切に対応していく。

【人員配置】新採用は130人程度。専門職は、社会福祉職と土木職で予定を上回り確保できる見込み。来年度の会計年度任用職員数は知事部局で67人減の1,501人。ワークライフバランス定数は今年度を上回る44人の見込み。

【今後の取り組み】県職労は、人員配置について、定数に対する欠員以上に職場で感じている人員不足の認識は大きく差があることを指摘し、実態を踏まえた人員配置を強く求めた。また、人事異動について、1日でも早い内示を求めた。23春闘を皮切りに、秋の確定闘争に向けて、全職員が安心して働き続けられる職場環境の確保に向けて取り組みを強化していく。

最近、冷凍食品の自動販売機や無人販売所を見かける機会が増えた。主な取扱品目はラーメンや餃子などが、例えば海鮮丼の具など、新たな品目も取り扱われるようになってきている。ただし、ほとんどの品目は、調理又は加温が必要なものである。冷凍食品の加工技術の向上により、味も比較的良好であり、かつ、無人販売であるため低コストで時間を問わずに購入できるため、愛用している方も多いためではないか。ただ、無人であるため低コストということはあるが、それだけ雇用の機会が少なくなるという側面もあり、働く者の立場から考えると、複雑な思いがする。ただし、当然のことながら、自動販売機も無人販売所も、商品を供給し、代金を回収する労働者がいない限り、事業は成り立たない。それ以前に、販売する品目を製造する労働者がいない限り、事業は成り立たない。自動販売機も無人販売所も、販売している場所自体は無人でも、労働者がいなければ成り立たないという意味においては「無人」ではない。かつての缶コーヒのCMのコピーで語られたように「世界は誰かの仕事でできている」のである。

現場の声を拾い上げ、改善実現を

= 3.4 税務職員協議会総会 =



▲3年ぶりに集会以で開催された税務職員協議会のようす

2022税務職員協議会総会が3月4日に開催された。冒頭、鳥屋部会長から「新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりに集会以で開催できたことを嬉しく思う。コロナの保健所支

援や鳥インフルの防疫作業支援もあり、職員の業務負担が増えるなか、自動車税身体障がい者等に係る課税免除制度の改正や業務支援に係る新システムの導入など、将来の税務職員が業務をするにあたり、不安を感じながら対応しなければいけない状況が見込まれる。これらを踏まえて、しっかりと現場の声を拾い上げ、職場実態を踏まえた要求を今後も進めていく」とあいさつ。

総会では、職場改善要求や実感できる働き方改革を目指した取り組みなどを柱とした運動方針の提起、運



▲各支部の代議員からは、多くの議論が交わされた

不足。人員を増やす取り組みを重点的に(久慈)。
【公舎料関係】
・交渉は決裂したが、当局に責任を押し付けるだけでなく、何が足りなかったのかしっかりと総括を(一関)。
【職場改善】
・業務効率向上のために、一人一台パソコンの性能向上を(久慈)。
・予算不足で公用車等更新が入札不調に。適切な予算配分の要求を(久慈)。
・電子決裁システムのアンケートを実施したが、否定的な意見が多かった。全支部アンケートを実施し、課

【諸手当改善】
・鳥インフル対応のバス移動時間に作業説明等研修にあてることで超勤手当に認められたが、特殊作業手当が職責に合わない(県庁)。
・今の住居手当の上限額は十分なアパートに入居できない。手当改善を(久慈)。
【組織拡大】
・加入に係る他県事例を支部に提供を(県庁)。
・会計年度任用職員の課題改善につながる具体的資料等を自治労本部、県本部に

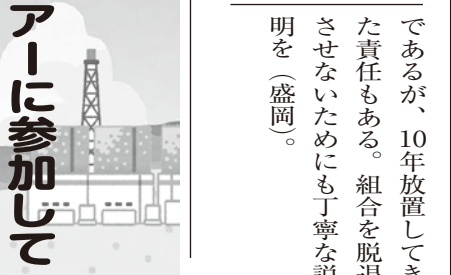
求めてほしい(県庁)。
・新採用職員の退職も適切に把握(分析反映を)(釜石)。
・現業組合員の若手育成は急務。組織維持のためにも手厚い予算措置を(盛岡)。
・全支部で同様に取り組めるよう点検し、困っている支部の運動支援を(花巻)。
【特別闘争資金の徴収】
・積み立てた資金は目減りする中での徴収はやむなしと判断。組合員の生活向上のためにしっかりと使ってほしい(一関)。
・基本的に反対。若手組合員は生活難で、組合費を理由した脱退が懸念(久慈)。
・採択を見送り上部団体の活動の内容や成果を組合員にきちんと説明し納得を得る必要がある。取り崩して

県職連合第33回・県職労第129回臨時大会

代議員の主な発言

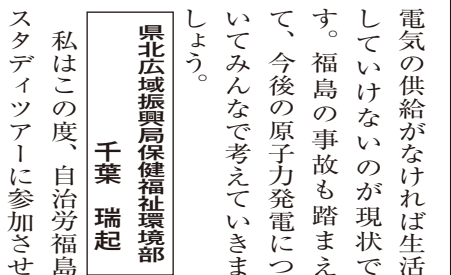
きた期間が長すぎる(宮古)。
・基本的には本部提起に賛成だが、新たに組合費が徴収されるイメージを持っていく人が多い。徴収すべき

自治労青年部 福島スタディツアーに参加して



▲津波の被害があったが、今は美しい海の景色

であるが、10年放置してきた責任もある。組合を脱退させないためにも丁寧な説明を(盛岡)。



▲「立ち入り禁止」の向こう側にあるまだ新しい軒家

電気の供給がなければ生活していけないのが現状です。福島事故も踏まえ、今後の原子力発電についてみんなで考えていきたいと思います。

今回のツアーでたくさん施設を見学しました。その中で特に印象に残った場所と、ツアーを通して何を感じたのかお話しします。まず、印象に残った場所は伝承館付近の防潮堤です。美しい景色でしたが、震災のことを考えると津波

県南広域振興局土木部 高橋 大翔
私がこの度、自治労福島スタディツアーに参加させていただきました。今回の研修では、「東日本大震災・原子力災害伝承館」、「道の駅なみえ」、「大熊町役場」、「リプルンふくしま」へ訪

が襲ってきたようでとても怖くなりました。良い景色はありますが、見えないものがとても印象に残っています。私はツアーを通して、被災者も含めて国民全員で考えなければいけない問題だと感じました。現地の方は福島で起こった事故を繰り返さないためにもリスクを少しでも減らした方が良く、と言っていました。しかし

今年号クイズ 当選者決定!!
県職労新年号クイズ応募者の抽選会が3月4日開催の県職労第129回臨時大会で行われた。

- 特別賞 (全国共通し券(20,000円)) 中山 忠人 (花巻支部・花巻県税センター分会)
- 支部応援賞 HOTEL METROPOLITAN (盛岡支部・県税部分会) ハウンドケーキ (盛岡支部・県税部分会)
- 岩渕 友弥 (胆江支部・総務部分会)
- 盛岡支部賞 (いわちく商品詰め合わせセット) 古川 健 (宮古支部・宮古地域振興センター分会) 二戸支部賞 (佐助豚と小形牧場の牛) 矢羽々 有 (盛岡支部・消防学校分会)
- 図書カード 遠藤 定義 (県庁支部・農村計画課分会) 菊池 真吾 (盛岡支部・総務事務センター分会) 西澤 順史 (盛岡支部・全国植樹祭推進分会) 藤原 好子 (盛岡支部・県税部分会) 遠藤 歩美 (盛岡支部・農政部分会) 佐藤 亮太 (胆江支部・奥州農業改良普及センター分会) 高橋 伸明 (二戸支部・一関県税センター分会) 佐藤 春香 (二戸支部・農村整備センター分会) 大澤 仁 (二戸支部・農林振興センター分会) 川又 翔子 (二戸支部・二戸農林振興センター林務分会)

もの言える女性になりたい

2月23日に岩手教育会館で、3.8国際女性デー岩手県集会以が開催された。「世界の問題を女性の視点から考えてみる」と題して、ドイツ出身エッセイストのサンドラ・ヘフェリンさんに



▲国際女性デー岩手県集会以の参加者で記念撮影

「ドイツでは、ウクライナ難民を歓迎し、個人宅で受け入れているが、それは逃げてきているのが女性や子供だからと説明。ウクライナ人男性は兵士として徴兵

されるため出国できない現状にあり、戦禍から逃れられず、国のために犠牲になっていることが垣間見えた。また、イスラム教徒の女性が、授業中にスカーフをつけることを理由に、教員不採用であったことを受け、ドイツでは未だにスカ

ーフをめぐる議論が続けられていることを報告した。「ドイツでは、既婚女性が口座を新設できなかった等、古い制度に女性が縛られてきたが、議論することによって変えてきた。女性の意見を述べて、男性が割り込む『マンタラプテイニング』という言葉も日常的に使われている。日本では、女性としてどう思うかなど話さない。フェミニストも嫌がられている風潮がある」と話した。参加者からは「うるさいと言われても、ものが言える女性になりたい」という声が出された。